

ロシア極東における北海道銀行の活動について

北海道銀行国際部ロシア室長

三上訓人

私どもが営業基盤とする北海道は、日本の中で一番ロシア極東に近い地域だ。この地の利を活かして、2009年3月にユジノサハリンスク市に、2014年3月にはウラジオストクに駐在員事務所を開き、現在2拠点で活動している。農業、建設・土木などの寒冷地技術、水産加工やサケ・マス養殖技術の分野などで、ビジネスマッチングを中心に積極的に活動している。

最近の事例では、極東ロシアのハバロフスク地方では日ロ合弁企業による大規模な野菜温室栽培施設を建設し、運営している。また、極寒と言われるサハ共和国でも試験温室施設にチャレンジして、順調な生産・販売を実現させ、更なる二期工事へと進展する。

一方で、日本企業が活躍する場が十分にある極東ロシアだが、障壁があるのも事実だ。その大きな課題の一つが物流である。ロシア側に於ける物流インフラ整備がまだ充分ではなく、使い勝手も悪く、コストも高いのが実情だ。また、通関手続きが煩雑であるという声も相変わらず多くの顧客から寄せられている。これまで日ロ間の貿易拡大の障壁となっていた様々な課題を解決し、海外への道産品輸出を支援するため、道内企業と協力して、2015年10月に地域密着型の商社を設立した。この地域商社と連携し、道内産品の輸出拡大を支援している。

今後も我々が最も力を入れているロシア極東地域において、日本政府が取り組んでいる8項目の協力プランに貢献する形で、北海道の技術やクオリティを活かした活動を継続して行く。